2019.03.13

再び唖然

小嶋祥三

久しぶりに霊長研のホームページをみて唖然とした。大学院生の留学生 G さんが京都大学総長賞を受賞したとあり、その理由にチンパンジーのじゃんけんの研究が含まれていた。チンパンジーのじゃんけんの論文はこのホームページで 2 度とり上げ、問題が多い（多すぎる）ことを指摘しておいた。また、大学院生は倒立した身体の知覚の研究を行っているようだが、有名な顔の正立・倒立の研究の延長として十分に考えられるもので、特に独創的というほどではない。総長賞がどのように選考されているか知らないが、首をかしげてしまう。「ノーベル賞から」という文で書いておいたが、これは大学院教育にとっても、共著者の友永、松沢氏にとっても、好ましくない。外国のマトモな霊長類研究者がチンパンジーのじゃんけんの論文を読み、それが京都大学総長賞を受賞したと聞いたら、腰を抜かすほど驚くだろう（総長はゴリラの研究者である）。京都大学も、霊長類研究所も、日本のチンパンジー研究も、Primates 誌も評判を落とすことになる。わたしが心配しているのは、霊長類研究者がこのような奇妙なことに意見を述べていないことである。黙らざるを得ない雰囲気なのだろうか。それとも、そうやって着飾っていれば、研究所に研究費がくるので黙っているのだろうか。このようなことでは、霊長類研究の将来は明るくないと、心配である。